

名前：

今日、インターネットは世界中で急速な拡大を見せており、我々は学校や職場のみならず各家庭でインターネットが利用できるようになっている。また近年では携帯電話を用いてインターネットにアクセスする方法も主流になりつつある。このような状況下で、多くの検索サイトがトップページにニュースを表示することにより、我々は場所や時間にかかわらず、手軽に情報入手できるようになったと言える。以前までテレビと並んで情報伝達を主に担っていた新聞や雑誌は、現在では多少「時代遅れ」の感があることは否めない。しかしながら、私は新聞・雑誌は情報伝達におけるその優位性を依然として失っていないと考える。そこで、以下にその理由を挙げて考察してみたい。

第一に、新聞・雑誌が紙を用いたアナログな媒体であることからくる優位性が挙げられる。すなわち、新聞や雑誌は一目で捉えられる範囲に、多くの情報が字体や色の使い方に

よって強弱がつけられて表示されるのである。このことにより、我々は自らに必要な情報を拾取選択することが容易になる。この点で、インターネット上の情報は細分化され、情報全体の展望を得ることが難しい。また、新聞・雑誌は切り抜き等を行うことで情報を永久的に保存することが出来る。このことも、次々と情報が更新されてしまうインターネットと明確な対比を成すであろう。

第二に、新聞・雑誌がもつ情報の多様性が挙げられる。つまり、ニュースのみならずテレビ番組の紹介や広告、特集記事などで多種多様な情報が盛り込まれているのである。

第三に、新聞社や雑誌を刊行している出版社が経済に果たす役割も見逃してはならない。これらの企業は莫大な広告収入を得て、テレビ局等の関連企業を設立し、大グループを形成している場合が多い。一国の経済は、このようなグループの成す活動が鍵を握っていると言っても過言ではない。インターネット業

1800字

界においてもヤフーや楽天など急成長を遂げる企業も現れたが、まだ大手新聞社の水準には達してない。

以上で見てきたように、新聞や雑誌には情報の伝達においてインターネットにはない多くの優位性がある。したがって、現在以降情報社会がより発展していても、新聞・雑誌は我々にとって必要と言えるのである。